非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター

第59号　　2016年5月27日発行

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル1階A室
Tel:080-6747-4157 E-mail:npj@peace.biglobe.ne.jp
Fax: 03-3255-5910 Website:http://np-japan.org/

Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

・【巻頭言】非軍事による平和構築の最前線
—南スーダン、シリアでのNGO活動、カトリック教会の自己改革
共同代表　君島東彦　2

・メル・ダンカン氏を迎えて
シンポジウム　非武装のPKO　案内　事務局　4

・九条医療者の会かごしま　講演会　会員　徳留由美　7

・「2000万署名」　事務局長　安藤　博　10

・2015年度の活動報告＆沖縄報告　共同代表　大畑　豊　11
・2015年度決算報告　理事会　15

・2016年度活動計画　理事会　16
・2016年度予算　理事会　18

南スーダンでのNPの活動
・・・・・・・・・・
農耕民族と牧畜民族との争いなどの地域のコミュニテイ間の紛争解決も活動の一つ

巻頭言

非軍事による平和構築の最前線 ──南スーダン、シリアでの NGO 活動、カトリック教会の自己改革

君島東彦（NPJ 共同代表）

いま世界と日本の軍事化が進行しています。世界のどの地域においても、軍事力の呪縛から脱出することが困難になっています。日本はさらに軍事化を深めようとしています。しかし、非軍事による平和構築の可能性を追求する動きがとりわけ２つの領域で顕著に見られます。それは NGO 活動とカトリック教会です。

まず、2000 年代始めから非軍事の平和構築の努力を続けてきた国際 NGO 非暴力平和隊は、いまとりわけ南スーダンとシリアで活動を展開して、非軍事の平和構築に挑戦しています。また、2016 年 4 月 11-13 日にバチカンで、ローマ教皇庁・正義と平和評議会と NGO パックス・クリスティの共催で「非暴力と正義の平和──カトリックの理解と献身」という会議が開かれ、この会議が採択したアピールはイエスの教えの中心にある戦争否定と非暴力を再確認し、「正しい戦争」（正戦論）を否定しました。

これらの２つの動きは、まさに日本国憲法の平和主義と響き合うものであるといえます。バチカンの会議には日本カトリック正義と平和協議会会長の勝谷司教も参加され、アピールは「日本国憲法９条をまもるための努力」に触れています。

このたび、国際 NGO 非暴力平和隊の創設者であり、4 月 11-13 日のバチカンの会議に参加した世界の非暴力運動のリーダーの１人、メル・ダンカン（Mel Duncan）氏をお招きして、非軍事による平和構築の到達点、展望、今後の課題について語っていただくことにしました。メル・ダンカン氏の話は、日本国憲法の平和主義のもとで、わたしたちはどれほど大きな非軍事の国際貢献ができるか、深い示唆を与えてくれると思われます。

7 月 3 日から 6 日にかけて、東京、京都、広島でシンポジウムが企画されています。詳細は下記のとおりです。みなさまのご参加をお待ちしております。

フランシスローマ教皇

ロンドンタイムス記者のインタビューに答えるローマ教皇庁・正義と平和評議会

Peter Turkson 大司教

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

シンポジウム「非軍事による平和構築の最前線――南スーダン、シリアでの NGO 活動、カトリック教会の自己改革」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

日時：7 月 3 日（日）14:00-17:00
会場：明治学院大学白金校舎
　　本館 10 階　会議場
基調報告：メル・ダンカン
　　（国際 NGO 非暴力平和隊･創設者）
通訳・討論：君島東彦
　　（立命館大学国際関係学部教授）
司会：高原孝生
　（明治学院大学国際平和研究所所長）
共催：明治学院大学国際平和研究所、
　　NGO 非暴力平和隊・日本
後援：日本カトリック正義と平和協議会

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

院内集会「非武装の PKO――憲法９条を実践する国際 NGO」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

日時：7 月 4 日（月）10:00-11:45
会場：参議院議員会館会議室
基調報告：メル・ダンカン
　　（国際 NGO 非暴力平和隊･創設者）
司会：交渉中
主催：NGO 非暴力平和隊・日本、
　　ピースボート（交渉中）

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

シンポジウム「非軍事による平和構築の最前線――南スーダン、シリアでの NGO 活動、カトリック教会の自己改革」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

日時：7 月 4 日（月）16:30-18:30
会場：立命館大学衣笠キャンパス、
　　恒心館 730 教室
基調報告：メル・ダンカン
　　（国際 NGO 非暴力平和隊･創設者）
討論：松本雅和
（関西大学政策創造学部准教授）（交渉中）
司会：君島東彦
　　（立命館大学国際関係学部教授）
主催：立命館大学国際地域研究所
　　・平和主義研究会

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

シンポジウム「南スーダンにおける PKO と NGO――ホルタレポートを手がかりとして」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

日時：7 月 6 日（水）18:00-20:00
会場：広島市立大学サテライトキャンパス、セミナールーム２
報告：井上実佳
　　（広島修道大学法学部准教授）
報告：メル・ダンカン
　　（国際 NGO 非暴力平和隊･創設者）
司会：河上暁弘
（広島市立大学広島平和研究所准教授）

メル　ダンカン（Mel　Duncan）氏履歴

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

＊現職：非暴力平和隊　特別プロジェクト責任者（国連・米国議会・新規プロジェクト・広報・渉外担当）
デビッド・ハートソーDavid Hartsough と共同創設者

＊学歴：マカレスター大学卒

＊家族：妻と 8 人の子ども（すべて発達障害児を養子）

＊過去の主な経歴：

1. 非暴力平和隊設立以前

（1）ベトナム反戦運動参加　　兵役拒否

（2）ACT（Advocating Change Together）設立 1979 年：全米初の発達障碍児の支援組織

（3）ニカラグア・コントラで平和維持活動に従事

（4）イラクへの医療支援（1990 年代）

（5）1999 年ハーグ平和会議に参加、デビッド・ハートソーと共に非暴力平和隊設立を決意（君島、大畑共同代表も合流）

2. 非暴力平和隊設立以降

（1）2002 年、インドで非暴力平和隊設立総会　（君島、大畑共同代表も参加）

（2）現在まで非暴力平和隊の創設者として様々な重要な役割に貢献

（3）2015 年 3 月 15 日、米国合同議会で
UCP（unarmed civilian protection/peacekeepers ）非武装市民平和活動の役割の重要性について証言

（4）2015 年 6 月 16 日、「国連平和活動に関するハイレベル独立委員会報告書」採択
注記：この報告書には、「非武装の文民保護（UCP）に従事している NGO のこれまでの貢献に鑑みて、国連平和活動はこれからもっとこれら NGO との連携をはかるべきである」という勧告が含まれている。この報告書は総じて、国連平和活動において軍事力以外のパワーを重視する傾向を打ち出している。

（5）国連訓練調査研究所（United Nations Institute for Training and Research, UNITAR）が NGO 非暴力平和隊の協力を得て「非武装の文民保護（Unarmed Civilian Protection, UCP）の理念と方法」に関するオンライン教育を開始
注記：　現在、国連平和活動が軍事化している側面が強調される傾向にあるが、住民保護、平和維持、平和構築等において、軍事力によらない方法を発展させようとする国際的な努力が顕著に見られる

シンポジウム「非軍事による平和構築の最前線
――南スーダン、シリアでのNGO活動、カトリック教会の自己改革」

日時：7月3日（日）14:00-17:00

会場：明治学院大学白金校舎　本館10階　会議場

基調報告：メル・ダンカン（国際NGO非暴力平和隊・創設者）

通訳・討論：君島東彦（立命館大学国際関係学部教授）

司会：高原孝生（明治学院大学国際平和研究所所長）

共催：明治学院大学国際平和研究所、NGO非暴力平和隊・日本

後援：日本カトリック正義と平和協議会

アクセス：

東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線　白金台駅から　2番出口より徒歩約7分

東京メトロ南北線 / 都営地下鉄三田線　白金高輪駅から　1番出口 (目黒駅側 / エレベーター有) より徒歩約7分

・・・

院内集会「非武装のPKO――憲法９条を実践する国際NGO」

日時：7月4日（月）10:00-11:45

会場：参議院議員会館会議室

基調報告：メル・ダンカン（国際NGO非暴力平和隊・創設者）

司会：交渉中

主催：NGO非暴力平和隊・日本、ピースボート（交渉中）

アクセス：東京メトロ　[出口]

1.永田町[1]（4分）　2.国会議事堂前[3]（7分）　3.溜池山王[8]（12分）

シンポジウム「非軍事による平和構築の最前線――南スーダン、シリアでの NGO 活動、カトリック教会の自己改革」

日時：7 月 4 日（月）16:30-18:30

会場：立命館大学衣笠キャンパス、恒心館 730 教室

基調報告：メル・ダンカン（国際 NGO 非暴力平和隊・創設者）

討論：パネリスト（交渉中）

司会：君島東彦（立命館大学国際関係学部教授）

主催：立命館大学国際地域研究所・平和主義研究会

アクセス：■JR・近鉄京都駅から
市バス 50 にて 42 分、快速 205 にて 36 分、「立命館大学前（終点）」下車
市バス 205 にて 38 分、「衣笠校前」下車、徒歩 10 分
JR バスにて 30 分、「立命館大学前」下車
■他の交通もあり　衣笠キャンパスへのアクセスに関するお問い合わせ
TEL 075-465-8149（衣笠キャンパス事務課）

シンポジウム「南スーダンにおける PKO と NGO ――ホルタレポートを手がかりとして」

日時：7 月 6 日（水）18:00-20:00

会場：広島市立大学サテライトキャンパス、セミナールーム 2

報告：井上実佳（広島修道大学法学部准教授）

報告：メル・ダンカン（国際 NGO 非暴力平和隊・創設者）

司会：河上暁弘（広島市立大学広島平和研究所准教授）

アクセス：広島市中区大手町四丁目 1 番 1 号　大手町平和ビル 9 階
「市役所前」電停・バス停から徒歩すぐ

「九条医療者の会かごしま講演報告」

会員　徳留由美

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2月6日の土曜日、郷里である鹿児島の「九条医療者の会かごしま」の皆さまよりご依頼を頂き、「市民による平和構築活動の経験と模索－現場の現実－」と題し、非暴力平和隊（以下NP）の活動を紹介させて頂きました。武力に頼らない「積極的平和」な活動と、昨今の安倍内閣が推し進める「積極的平和主義」に関する講演をさせて頂きました。参加者の方々は、医療関係者のみならず、学校の先生や主婦の方や学生、また年齢では80歳後半の方から中学3年生までと、幅広い方たちにご参加いただきました。非暴力平和隊日本の青木会員が架け橋となって下さり、非暴力平和隊の活動意義を、参加者の方たちにお伝えすることができました。

みなさんもご存知のおとり、ヨハン・ガルタング博士が提唱する「積極的平和」と、安部内閣が自分たちの政策を正当化するために使用している「積極的平和主義」は、言葉が似ていて混同されがちですが、まったく異なる理論です。メディアの方たちも、意味をよく理解せずに報道上の単なる「言葉」として、伝えているように感じます。この点を、参加者の方たちにも強調してお伝えしました。

非暴力平和隊の活動は、武力を持たず頼らず、軍隊でも民兵でもない、世界中から集まった市民が紛争地で活動を広げており、「積極的」に紛争当事者が対話を持てる物理的・心理的空間や機会を生み出し、暴力を未然に防ぐ活動を行っています。そして地域に住む「市民」に寄り添い、活動しています。私が赴任していたフィリピン・ミンダナオとスリランカでの活動方針は、現在も続いているフィールドの活動でも継続されています。

自衛隊を「軍隊」とするための憲法9条の改憲や、新しい安保法案の制定に対して、「異」を唱える方法。政府が推し進めている「武力主義」に置き換えられる方法の1つとして、「非暴力主義」のNPの活動があるという事を、参加者の方たちにも知っていただけたかと思います。

サンフランシスコ講和会議において、セイロン代表として会議に出席していたジャヤワルダナ蔵相（後、スリランカ第2代大統領）が仏陀の言葉を引用して、対日賠償請求を放棄する演説を行った時の言葉「増悪は増悪によって止むのではなく、慈愛によって止む。」を紹介した時、参加者の方

達にとっては初めて知る言葉でしたが、皆さんの心にも残って頂けたようです。

この言葉は外務省のホームページにも紹介されており、この言葉を友好と平和の礎としてスリランカへの援助を繰り広げていますが、日本政府はこの言葉の意味を、深くとらえていないように感じます。日本政府が初めて「紛争介入」したのがスリランカでしたが、その結果は評価できるものではないと感じています。日本の安保法案により、増悪の連鎖は止まらなくなることでしょう。今こそ、「慈愛」の精神で、暴力的な解決策を模索するのではなく、お互いに理解しあい、存在を認め合い、共存していく道を模索するべきであると思います。私は、日本の憲法 9 条の下で、「慈愛」により、構造的暴力を軽減する道を、日本政府には広げていって欲しいと思います。

極端に言えば「積極的」に武力を持って、自国だけではなく他国も守るのという政府の「積極的平和主義」ではなく、「積極的」に紛争解決への道筋を、武器に代わる外交手腕を磨くことで、暴力的な介入ではなく、当事者が落ち着いて話し合えるような環境を提供できるような「積極的平和」を、日本政府には推進していただきたいという私個人の意見を、参加者の方達にも伝えさせて頂きました。

そのような活動を後押しできるのは、武器を持つ軍隊ではなく、武器を持たない市民の地道な活動だと思います。これは、積極的平和な活動を繰り広げる NP の活動意義にもつながるかと思います。武器を持つ前に、まずなぜ争う必要があるのかを知り、その解決策、お互いの妥協点、理解しあう努力により生まれる双方にとって良い道筋を考える。とても大切なことであるかと思います。

参加者の方たちとも、積極的な質疑応答をさせて頂きました。IS の問題についてなど、多様な質問を頂き、私も様々な事を再認識させて頂きました。

後日頂きましたアンケートをいくつか紹介させて頂きます。様々なご意見を頂き、ありがとうございました。
「暴力は暴力によって止まらない慈愛によって止むという言葉が印象的でした。NP(非暴平和隊)という組織の活動について初めて知りました。精神的にも肉体的にも大変な仕事でおどろくことでした。知ることができてよかったです。周りにも伝えたいと思います。NP の活動は紛争地域に対してだけでなく、社会のさまざまな問題についてのアタッチメントに応用できるのではと思いました。」「NP の具体的な存在と活動内容を初めて知り感動しました。一人の個人が、ひとりの市民が本来の意味の積極的平和を求めて活動・行動している、しかもそれが紛争地域で信頼を得て、その現地で当事者たちを成長させ、考えさせ、解決の手助けになっていることに感銘を受けました。暴力ではなく信頼で解決していく！！ことですね。実際現地で隊員として

活動されてきた徳留さんのお話は「憲法9条」の大切さを実感させてくれました。」「スペースを作るという目的が、よくきくNPOとは違った活動で印象に残りました。」「「積極的平和」が知りたくて来ました。やはり思っていたとおりでした。安倍氏はネジ曲げて言うので紛らわしい。「積極的平和」を知人にも話そうと思います。」「NPJ（非暴力平和隊日本）の働き、これまでよく知りませんでした。こんな働き方がある事を知ることができ、ありがとうございました。非暴力、話し合い、隣人、人の命を第1に考えることの大事さを思います。なぜ上に立つ人々は、それがわからないのでしょうね。平和を作りだすことの困難を思いますが、平和を、今ある9条を守り続けていけますように。」

最後に、医療者 9 条の会の事務局の方々、参加して下さった皆さん、またご尽力いただきました会員の青木さんに感謝致します。青木さんの鹿児島での平和活動の輪のおかげで、このような講演に呼んで頂き、有意義な意見交換ができたことに感謝致します。ありがとうございました。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

総がかりで切れ目なく

事務局長　　安藤　博

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・「総がかり」

集団的自衛権行使の閣議決定が行われた2014年7月1日以降、戦争国家にのめり込んでいく安倍政権に対する市民の闘いが切れ目なく続いています。戦争法案が2015年9月19日に強行採決されたのを機に始まった「2000万署名」は、4月末には1,200筆を超えていて、6月末に向け全国いたるところ、総がかりで続けられています。「6月末」、それは参議院議員選挙を間近に控えた反安倍政権・反安保法制の闘いの正念場です。

「総がかり」とは、反安倍・反安保法制の闘いの中で、「共産党系」「社会党系」などと分派を言い立てる愚を克服し、一丸となって戦争をしない国家の誇りを守ろうということです。「・・系」は、依然頭をもたげることがありますが、強大な権力に立ち向かうものどおしの連帯で、統一が一歩一歩進んでいます。5月3日憲法記念日の統一集会、そしてとても無理かと思われていた参院選32一人区の野党候補一本化です。

・6月5日統一行動

目下、統一行動の山場として準備されているのは、国会包囲「6・5全国総がかり大行動」です。「参院選で野党勝利　憲法を

守る国会へ」を謳って 14 時から国会正門前などでおおがかりな集会をおこないます。同時に全国各地で一斉にパフォーマンスがおこなわれます。10 万人余の大集会となった 2015 年 8 月 30 日の国会包囲行動を上回る規模を目指しています。

「8/30」は日本の市民運動の転機をなすものとされています。参加者が 10 万人を超えたという規模の大きさもさることながら、労組などの組織的動員とは無関係のひとびとがかなりたくさん加わっていたことです。「国会ってどこにあるんでしょう？」「集会に参加するには料金がいるのでしょうか？」ー総がかり行動リーダーの高田健さんの事務所に、以前にはあまりなかったこうした電話がかかってくるといいます。

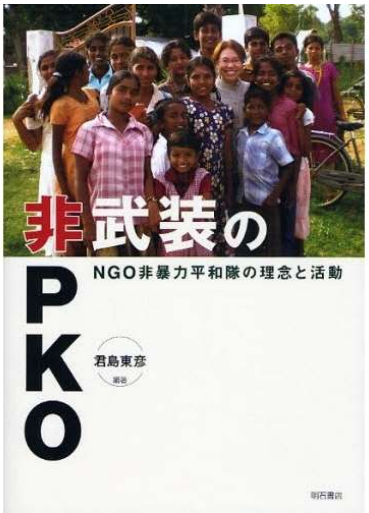
そうした運動の広がりが、直ちに「安倍政権打倒」につながるものではないでしょう。安保法制は「8/30」の高揚をこともなげに踏み超えて成立したのです。安倍政権はウソやトリックで成り立っているわけではなく、選挙で多数を得て獲得した多数議席で支えられています。「2000 万署名」の向こうを張って行われている改憲・安保法制支持の署名も侮り難い数を集めているようです。

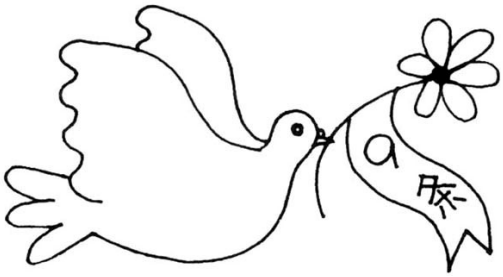
・沖縄との連帯

市民ひとりひとりが盛りたてる「総がかり行動」を、切れ目なくねばり強く続けていかねばなりません。25 日に行われた「総がかり行動」の事務局会議では、毎月 19 日定例の国会周辺行動を、6 月の 19 日（日曜日）は米軍軍属による暴行殺害事件に対する怒りで燃えている沖縄との連帯集会とすることを申し合わせました。

わたくしたち非暴力平和隊・日本（NPJ）は、7 月初めに非暴力平和隊の創立者メル・ダンカン氏を日本に招聘して東京、京都、広島で講演集会を行います（本誌掲載君島稿参照）。この一連の集会を「総がかり行動」につなげ、切れめのない非暴力平和活動の一翼を担うものとしていきたいと思っています。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇





２０１５年度の活動報告

共同代表　大畑豊

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

■　沖縄報告も兼ねて

NPJ のこの１年の活動を振り返ってみますと沖縄に始まり、沖縄に終わる１年でした。ある意味、沖縄は今日本でもっとも非暴力運動が果敢に行なわれていると同時に試されいる場所でもあり、「日本のガンジー」と呼ばれた阿波根昌鴻さんの歴史的遺産が引き継がれ活かされている場所でもあります。

私自身、昨年から今年にかけて、NPJ からの支援も受けて１ヶ月ずつ３回沖縄で滞在して座り込み活動などに参加し、現在は１年ほどの予定で阿波根さんが創設された「わびあいの里」を拠点として活動に参加させていただいてます。

NPJ は「観て考える非暴力」シリーズとして４月７日に「軍隊がいた島～慶良間島の証言～」を観ました。アジア太平洋戦争末期、米軍が慶良間諸島に上陸、日本軍の誘導により起きた「強制集団死」（集団自決）の生々しい証言記録映像でした。６月は「速報　辺野古のたたかい　4～5 月」で最新の現場での闘いの映像を観るとともに、辺野古の抗議船「不屈」号の名前の由来となった、米軍占領下の闘う那覇市長・瀬長亀次郎を描いた「沖縄返還運動と瀬長亀次郎」を観ました。占領下から脈々と抵抗の精神が引き継がれていることを再認識する映像でした。元那覇市長の翁長県知事にも思いを馳せ、ぜひこの不屈の精神で辺野古建設を押し返してほしいと願わざるを得ませんでした。

６月 30 日にはまさに 1959 年この日に米軍ジェット戦闘機が、石川市（現うるま市）にある宮森小学校の校舎に衝突、炎上。事故による死者は小学生 11 人を含む 17 人、重軽傷者 210 人という大惨事となった「宮森小学校米軍ジェット機墜落事件」の記録映像を観ました。わが子の無事を祈って駆けつけた親も近寄れない、警察も何もできない状況は、2004 年に沖縄国際大学に米軍ヘリが衝突したときでも同じであり、いまだに「占領下」である事実をつきつけられるものでした。

■またもや米軍属による女性死体遺棄事件が

全国紙でも報道されご存知のとおり、4 月末から行方不明であった 20 歳女性の遺体が発見され、元米国海兵隊員の軍属男性 32 歳が逮捕される事件が起きました。この最悪の結末に沖縄中で怒りの炎が上がっています。沖縄にいる限り、基地から離れていても夜も安心して歩けない、まさに「戦場」と同じである、何度同じ悲劇を繰り返せばいいのか、翁長知事は「この怒りは持って行き場がない」と述べ、全基地撤去の県民の声に「私の怒りとやるせなさは県民が等しく感じている」と異例とも言える言及をしました。米軍構成員による凶悪犯罪は日本復帰の 1972 年以降、確認されているだけでも 573 件起きており、日米安保条約

で駐留を許されているなかでは、１件でもあってはならない事件です。

元海兵隊員で平和活動家のアレン・ネルソン氏が言っていたように、基地内で身につけた暴力性は基地から出るときに（あるいは除隊後も）、服を脱ぐように基地内に置いていけるものではなく、常に身につけて、基地外にも出る。基地内では日常的に「殺せ」という訓練を受け、基地外では人権を尊重して良き隣人たれ、というのは無理な注文です。軍隊という暴力装置、暴力を発生させる構造をなくさない限り繰り返されます。県内各界からも「基地の全面撤去しかない」という声が大きくなっています。

安慶田副知事は「20 歳といえば、これからの自分の人生で夢と希望に胸を膨らませて、将来の人生を描いてはつらつとした時期にもかかわらず、命を奪われた。実に痛ましい事件」と述べ、県民の民意は無視できないと基地全面撤去にも言及しました。市民団体の記者会見では「被害者は私だったかもしれない。私もよく夜に歩いている」「恐怖と怒り、悲しみで言葉にならない」とシールズ琉球の玉城愛さん（21 歳）は発言されました。

告別式でのご両親の「娘は、私達夫婦にとってかけがえのない宝物でした」「今が一番楽しい時期だったのに」「思い出も涙も、尽きることはありません」との言葉は痛ましいとしか言いようがありません。告別式にも参列された翁長知事は「私も 21 歳の娘がいる」、県知事として「将来の子や子孫の幸せというものを、どこのだれよりも考えていかないといけないという立場からすると」沖縄の置かれている状況をみるに「日本を守る安全保障とはなんなのだろうか」と心情を吐露されました。

この事件は 1995 年に起きた米兵３人による少女強姦事件、さらには 1955 年に起き

た、６歳の幼女が米兵に連れさられ、嘉手納基地内で何度も暴行されたのち殺害され、基地内のごみ捨て場に遺体が捨てられた「由美子ちゃん事件」を県民に改めて思い出させました。当時米軍により獄中に捕らえられていた瀬長亀次郎は日記に以下のように記しています。

「県民総ぐるみの闘いを組む以外に県民を解放することはできない」

「団結を固めよう。三度叫ぶ。一切の利己心を捨てよ！」

■　日本への復帰とは何だったのか

当初、５・１５の沖縄復帰記念式典前後の県内の動きを中心にご紹介しようかと思っていたのですが、米軍属による女性遺棄事件が起きてしまい、ご紹介することはできなくなってしまいました。核抜き本土並み、基地のない、日本の平和憲法の下に戻るんだといって復帰したら、密約で核を持ち込むことは可能となっており､｢本土並み｣に自衛隊が配備され、そして復帰前以上に米軍基地が密集する日米安保条約の下に戻って来てしまった、沖縄にとってはまったく期待はずれの復帰でした。

復帰後最初の知事となった屋良朝苗は「基地のある間は沖縄の復帰は完了したとはいえない」との言葉を残しています。

■軍事力による平和でなく、非軍事による平和を：フォーラム開催

9 月 19 日には集団的自衛権を可能にし、他国での戦争への道を開く安全保障関連法が成立しましたが、こうした日本政府の姿勢に対してのオルタナティブとして非暴力による平和構築を考えるフォーラムを 11 月 14 日に開催しました。講師に「９条部隊」創設を提唱しておられる加藤朗・桜美林大教授を招き「憲法の平和主義と 9 条部隊」として講演をしていただき､林田光弘氏（明治学院生、SEALDs メンバー）、君島東彦・NPJ 共同代表､徳間留美氏（元非暴力平和隊員、ミンダナオ・スリランカにて活動）各氏により非暴力による平和構築への希望と課題を論じていただきました。

■　NP、ノーベル平和賞にノミネート

またこうした日本政府の動きの一方、国際社会・市民社会においては軍事力以外の平和構築を重視する傾向を打ち出しています。

国連平和活動に関する重要な政策文書である「国連平和活動に関するハイレベル独立委員会報告書」（2015 年 6 月 16 日）において、「非武装の文民保護に従事している NGO のこれまでの貢献に鑑みて、国連平和活動はこれからもっとこれら NGO との連携をはかるべきである」という勧告が含まれ、非暴力平和隊のような NGO、市民社会などの非武装の市民による平和維持・住民保護の活動の意義・重要性が認められたことになります。NP らの紛争地で活動や、国連を初めとする国際社会への地道な働きかけがあってこのような画期的な成果を生むことが出来たと思います。また NP は 2016 年のノーベル平和賞にノミネートもされておりますので､この機会に NP らの活動を知って

もらい、非軍事に平和構築への認識の普及を図っていけたらと思います。

■　その他

・高江でのヘリパッド建設阻止活動への支援

10 月　「高江ヘリパッドいらない住民の会」へ活動支援金　30,000,

3 月　「高江ヘリパット建設反対市民連絡会」へ活動支援金　40,000 円

辺野古への活動は全国的注目、支援が集まっておりますが、その影で、東村高江でにオスプレイ用ヘリパッド建設阻止の活動も 24 時間、365 日続いております。そうした活動により、しばらく高江の建設作業はストップしていたのですが、辺野古の隙間をぬうように最近は防衛局の動きが活発になっており、高江の作業ゲート前に置かれた市民の車両撤去を防衛局が県に（移動するよう）指導を要請したりしています。６月まではノグチゲラ等の繁殖期間なので重機などを使った工事はできませんが、７月からの座込み態勢強化に向けた取り組みが始まっています。

・　沖縄派遣報告会　11 月 3 日（事務所）

・非暴力ワークショップ／沖縄報告会　北九州　　1 月 23 日

『「キリスト者・９条の会」北九州’九条守りたい’』主催で非暴力トレーニングと沖縄報告会を開催。鹿児島でも開催予定でしたが、豪雪のため、急きょ中止となりました。（詳細はニュースレター58 号）

・岡田二朗氏、NP 南スーダン赴任

かって NPJ から NP ブラッセル本部（当時）にインターンとして派遣した岡田二朗氏が米国留学後、NP の南スーダンチームに UCP（Unarmed　Civilian Peacekeeper）として２月より赴任しています。着任後一時体調を崩されていたようですが、今後の活躍に期待したいと思います。

・ NPJ も（2014 年度に）寄付しました丸木美術館の「原爆の図アメリカ展」が昨年実施され、アメリカン大学美術館（６～８月）のほかに、ボストン（９～１０月）、ニューヨークのパイオニア・ワークス（１１～１２月）で展示されました。今回のオバマ大統領ヒロシマ訪問実現への一助になったのではないかと思います。

・リーフレット、のぼり旗等作成

青木理事が中心となり、リーフレットの改訂、新規のぼり旗の製作を行ないました。どうぞご活用ください。（事務局までご連絡ください）

NPJ　2015年度決算報告

	項目	15年度予算	15年度実績	備考
1	参加費		11,200	11/14シンポジウム
2	会費	600,000	587,000	
3	カンパ	400,000	403,500	夏季・冬季カンパ
4	雑収入	0	392	
5	**経常収入計**	**1,000,000**	**1,002,092**	
6	発送配達費	64,000	57,346	NL発行：6月,9月、12月、2月
7	給料手当	240,000	240,000	20,000/月
8	事務所賃貸料	120,000	120,000	10,000/月
9	振込料	12,000	11,180	
10	事務費	30,000	53,735	NPJ封筒印刷代　25,083円
11	旅費交通費	90,000	101,350	北九州トレーニング新幹線往復（大畑）
12	通信費	30,000	16,195	
13	雑費	7,000	8,794	
14	広報費	144,000	65,933	翻訳費発生せず
15	活動支援費	440,000	260,066	注1
16	会場費	20,000	0	
17	講師費用	40,000	10,000	11/14　加藤朗　講師謝礼
18	予備費	40,000		
19	**経常支出計**	**1,277,000**	**944,599**	
20	当期経常収支過不足	−277,000	57,493	
21	前期繰越剰余	407,208	407,208	
22	**今期経常繰越剰余金**	**130,208**	**464,701**	
23	特別収支			
24	前記残高	**2,277,310**	**2,277,310**	
25	今期支出			
	メルダンカン招待	700,000	0	2016年度へ繰越
26	**特別収支残高**	**1,577,310**	**2,277,310**	
27	未払金	0	84,662	
28	**残高合計（22+26+27）**	**1,707,518**	**2,826,673**	

注1. 非戦ネット　10,000円、いわき市平和の集い5,000円、NARPI支援30,000、NPアライアンス60,000、10/13沖縄派遣30,000,10/19高江ヘリパッドいらない住民の会30,000,12/13大畑沖縄派遣30,000
1/23川辺希和子　キリスト教9条の会北九州トレーニング20,000、鹿児島活動支援金　5,066円、
高江ﾍﾘﾊﾟｯﾄ建設反対現地活動連絡所沖縄活動支援　40,000円

2016年度へ繰越：GPACC支援100,000、ポストコンフリクト地域支援60,000、メルダンカン招聘広報など

2016年度活動計画

2015年6月、「国連平和活動に関するハイレベル独立委員会報告書」で、「非武装の文民保護に従事しているNGOのこれまでの貢献に鑑みて、国連平和活動はこれからもっとNGOとの連携をはかるべきである」という勧告が含まれており、国連平和活動において軍事力以外のパワーを重視する傾向を打ち出された。また、国連訓練調査研究所（United Nations Institute for Training and Research, UNITAR）がNGO非暴力平和隊の協力を得て「非武装の文民保護（Unarmed Civilian Protection,UCP）の理念と方法」に関するオンライン教育を開始した。更に、2016年1月にはアメリカ友和会はノーベル平和委員会に対しNPのノーベル賞を推薦している。NPが率先活動しているUCPの有効性がグローバルに認められつつある。

国内に目を転じれば、安倍政権は、戦争立法や言論統制等で「戦争できる国」に向けて猛進している。沖縄では、辺野古基地新設に反対活動を行う市民に対して海上保安官、警視庁機動隊員が凶悪な暴力を奮っている。遠く南アジアやアフリカを思い遣るまでもなく、日本が暴力の現場となりつつある。私たちの非暴力平和活動は、(nonpartisanshipの原則に抵触するか否かに関わらず)、国家権力による足元の暴力に対処せざるを得ない。

2014年7月1日の「集団的自衛権行使容認」閣議決定以降、NPJの仲間の多くがそれぞれの場で戦争・暴力への途を食い止めるための活動に当たっている。2015年9月19日に安保法が成立してしまったのを機に始まった「2000万署名」が、差し当たりの重点行動である。2016年は、夏の参院選が正念場となる。「戦争の放棄」（憲法第九条）を放棄する改憲への布石として、参議院の三分の二多数を獲得するための選挙戦に安倍政権が全力投球しているからである。

日本が、戦前同様、戦争で殺し殺される暴力の当事者にならないようにするため、わたしたちの足元で、また非暴力平和隊（NP）の南スーダン等での和平活動に対する支援で、「武器によらない平和」に力を尽くそう。これらの活動を、将来のNP 活動を担う若い世代に継承していくことに意を用いながら、2016 年度の活動を以下のように計画する。

・・・・・・・・・・・・・・・・

・<u>「南スーダンにおける自衛隊と非暴力平和隊」をテーマとする講演会開催</u>

2016年前半、東京で。2015年以来の懸案メルダンカン招聘を、この講演会企画として実現することを期す。できれば5月22日～24日、6月2日～4日に来日するガルトゥングとの二者を併せた集会とする。

・<u>シンポジウム「日本国憲法が考える安全保障構想」を開催</u>

2016年夏の参院選をにらみつつ、君島代表を講師の一人とし「日本国憲法が

考える安全保障」につながる東アジア集団安全保障体制等をテーマにしている憲法学や平和学の論者と併せた討論集会を行う。

・沖縄米軍基地新設闘争への支援

国内の主要な暴力現場、沖縄の辺野古、高江での基地新増　設を阻止する闘いに対して、2014 年度、2015 年度に続き 2016 年度も資金支援する。

・NARPI への支援

2016 年は台湾で開催されるイベントに向け、2015 年度と同様の支援をおこなう。

・非暴力トレーニング開催

非暴力市民平和活動に関する啓蒙活動として、北九州や鹿児島で行われた非暴力トレーニングをその他の地域でも開催。併せて UCP に関する地域でのミニ集会・勉強会などを行う。

・NP の紛争地活動支援

NP の紛争地活動への支援金として、NPJ 会費の年度収入の 10%程度を 2015 年度に続き送る。NP アライアンスメンバーとのコミュニケーションを強化する（テレカンファレンス参加）。

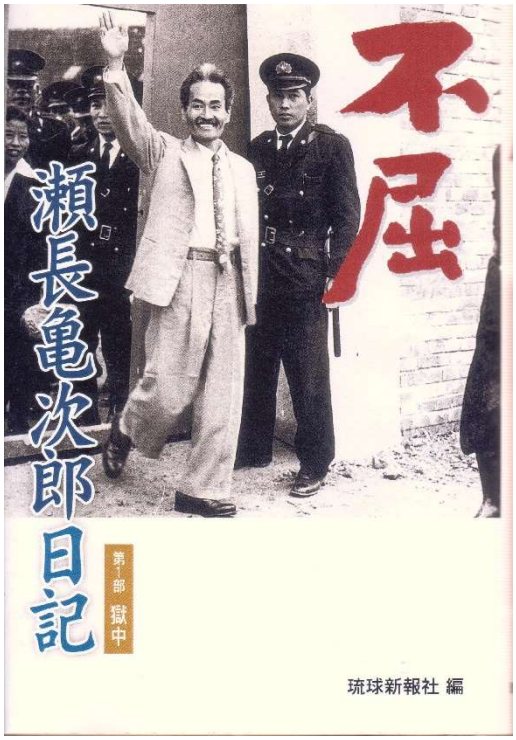
・非暴力平和に関わる最新文献の翻訳

2015 年 10 月 10 日にドイツ・ボンで行われたシンポジウム「非武装の文民による平和維持（Unarmed Civilian Peacekeeping, UCP）」の英文記録（36 頁）を日本語に翻訳し NPJ の HP にアップする。場合によって小冊子とする。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

＊NARPI（：東北アジア地域平和構築インスティテュート：Northeast Asia Regional Peacebuilding Institute）は、東北アジア地域に根差す市民社会の平和創造の力をより強めることを目的に、毎年、実践的平和トレーニングを提供するため設立、2011 年第 1 回夏季平和実践トレーニングを韓国・ソウルにおいて開催、日本、中国、韓国他 8 カ国から 50 名近い参加。昨年はウランバートルで実施。NPJ と理念・目標などで共通しており、また、NPJ の理事の奥本京子（大阪女学院大学教員）が日本側の代表でもあり、設立当初より NPJ は支援している。今年は台湾で実施。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇



NPJ　2016年度予算

	項目	15年度予算	15年度実績	16年度予算	2016年度予算説明
1	参加費		11,200		
2	会費	600,000	587,000	600,000	2015年度実績
3	カンパ	400,000	403,500	400,000	2015年度実績
4	雑収入	0	392	0	
5	**経常収入計**	1,000,000	**1,002,092**	**1,000,000**	
6	発送配達費	64,000	57,346	64,000	NL発行:5月、9月、12月、2月
7	給料手当	240,000	240,000	240,000	20,000/月
8	事務所賃貸料	120,000	120,000	120,000	10,000/月
9	振込料	12,000	11,180	12,000	2015年度実績
10	事務費	30,000	53,735	30,000	2015年度予算
11	旅費交通費	90,000	101,350	90,000	2015年度予算
12	通信費	30,000	16,195	30,000	2015年度予算
13	雑費	7,000	8,794	7,000	2015年度予算
14	広報費	144,000	65,933	184,000	内訳別紙 ①
15	活動支援費	440,000	260,066	440,000	内訳別紙 ①
16	会場費	20,000	0	10,000	内訳別紙 ①
17	講師費用	40,000	10,000	30,000	内訳別紙 ①
18	予備費	40,000		40,000	2015年度予算
19	**経常支出計**	**1,277,000**	**944,599**	**1,297,000**	
20	当期経常収支過不足	−277,000	57,493	−297,000	
21	前期繰越剰余	308,081	407,208	407,208	
22	**今期経常繰越剰余金**	31,081	**464,701**	**110,208**	
23	特別収支				
24	前記残高		**2,277,310**	**2,277,310**	
25	今期支出				
	メルダンカン招待	700,000	0	700,000	内訳別紙 ①
26	**特別収支残高**	1,577,310	**2,277,310**	**1,577,310**	
27	未払金	0	84,662	0	
28	**残高合計（22+26+27）**	1,608,391	**2,826,673**	**1,687,518**	

2016 年度予算　別紙①

1. 活動支援費の主な支出

（１）NP 関連

①NP 支援 60,000 円：会費（600,000 円）の 10%を目途に NP の支援に充てる

②NP ポスト・コンフリクト支援 60,000 円：パイロット・プロジェクトとして NP が活動を開始したスリランカの平和構築プロジェクトへの支援

（２）NARPI(ナルピ)への支援　30,000 円

NARPI（：東北アジア地域平和構築インスティテュート：Northeast Asia Regional Peacebuilding Institute）は、東北アジア地域に根差す市民社会の平和創造の力をより強めることを目的に、毎年、実践的平和トレーニングを提供するため 2011 年設立以来各国で平和実践トレーニング実施。昨年はウランバートル、今年は台湾で実施。NPJ と理念・目標などで共通しており、NPJ の理事の奥本京子（大阪女学院大学教員）が日本側の代表。

（３）GPPAC 参加支援 100,000 円　　2015 年度で予算計上　本年に繰り延べ。内容変更の可能性あり。GPPAC/NEA（Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict＝武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ）：2001 年、国連のアナン事務総長が紛争予防における市民社会の役割が大切だとの呼びかけに応えて発足したプロジェクトで、欧州紛争予防センター（ECCP）を国際事務局とし、世界各国の NGO が参加。東北アジア地域（NEA）各国で 2003 年以来「地域プロセス」を開始。中国、モンゴル、ロシア、北朝鮮も参加。今年は若者を随行させる（交通費補助）。

（４）地域活動支援費 50,000 円

昨年、北九州市、鹿児島市（直前の台風で中止）などで開催された非暴力トレーニング、平和イベントなど地域活動への支援費。

（５）NP 啓蒙活動費 60,000 円：メル・ダンカン来日に関連支援

（６）沖縄支援 50,000 円：2015 年と同じ

2. 広報費の主な支出

（１）ウエブ管理費 54,000 円：

（２）NP 活動翻訳費 100,000 円：ボン・シンポジウム報告書翻訳

（３）その他、翻訳情報への対価

3. シンポジウム「日本国憲法が考える安全保障構想」を開催　　30,000 円

2016 年夏の参院選をにらみつつ、「日本国憲法が考える安全保障」につながる東アジア集団安全保障体制等をテーマにしている憲法学や平和学の論者と併せた討論集会実施

４．メルダンカン招待 700,000 円：特別会計より支出（2015 年度より繰越分）2016 年 7 月 1 日～8 日を予定。東京、京都、広島で講演会開催　　テーマ:「南スーダンにおける自衛隊と非暴力平和隊」

Nonviolent Peaceforce

非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援してくださる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申込みは、**郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊・日本のウェブサイトの入会申込ページ**をご利用くださいますようお願いいたします。

◎正会員（議決権あり）
- 一般個人：10,000円
- 学生個人：3000円

◎賛助会員（議決権なし）
- 一般個人：5000円（1口）
- 学生個人：2000円（1口）
- 団体　　：10,000円（1口）

＊ 団体は正会員にはなれません。

■ **郵便振替**：00110-0-462182　加入者名：**NPJ**

＊通信欄に会員の種類を（賛助会員の場合は口数も）ご明記ください。

■ **銀行振込：三井住友銀行　白山支店　普通　6622651**　口座名義：**NPJ代表　大畑豊**

＊銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話・ファックス・メールのいずれかを通じて入会希望の旨、NPJ事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

■ **ウェブサイトからのお申込み**：http://np-japan.org/4_todo/todo.htm#member

【編集後記】ちょうど今から 10 年前、訪米の機会を利用してミネアポリスにある NP 本部事務所を訪問しました。その時のメル・ダンカンと私の写真です。看板にはエピスコパル（米国聖公会）の祈りの家と書かれており、下に Nonviolence Peaceforce のロゴがあります。後ろの建物が NP 本部であったかどうか今は記憶が不確かです。この祈りの家と NP とは何らかのかかわりがあったと思います。前日の晩はメルの家に泊めてもらいました。家に入るとメルは数人の子どもたちを私に紹介してくれました。しかし、子供たちはちゃんとした挨拶をしないので不思議に思っていました。あとで分かったのですが、メルが養子にした発達障害を持つ子どもたちでした。数人は既に社会に送り出したと言っていました。確か、地下にある一室に案内されました。改装中のような感じで床や壁はコンクリートがむき出しており、ベッド以外ほとんど家具がありませんでした。ベッドには、寒くないようにいろいろの掛け布団が用意されていました。4 月中旬とは言え、写真でお分かりのように残雪があり、暖房のない部屋で寒い一夜を明かした記憶があります。日本人ですと多分このような状況ですと恥ずかしくてお客は招かないと思います。しかし私は、部屋は寒くてもありのままのところに招いてくださったメルとその家族の心の温かさに大変感激したことを覚えています。（大橋祐治）